

## 令和7年度 第4回 入野中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月24日（火） 9時30分から11時15分まで
- 2 開催場所 入野中学校 大会議室
- 3 出席委員 大塚 哲雄、田澤 健司、御室 福二、齋藤 良夫、幅 あけみ、  
内藤 明子、村上 さくら、石川 和宏
- 4 欠席委員 田口 章
- 5 オブザーバー 松下 正行（浜松市議会議員）、
- 6 学 校 池田 隆宏（校長）、高橋 知己（教頭）、  
大庭 孝仁（主幹・CS担当）、久保 理絵香（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 久保 理絵香
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、齋藤委員、御室委員から内藤委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

### 10 協議事項

- (1) 令和7年度学校評価について  
(学校の現状と課題、学校・家庭・地域のできること)
- (2) 次年度学校運営の基本方針について  
(学校教育目標、目指すこどもの姿等、実態を踏まえた方針となっているか)
- (3) 学校運営協議会の自己評価について  
(今年度の熟議や情報発信についての評価と来年度の目標について)

### 11 会議記録

司会の高橋教頭から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

#### (1) 令和7年度学校評価について

議長の指示により、令和7年度学校評価について大庭主幹から、いじめ防止基本方針に基づく取り組み状況について高橋教頭から説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 自己評価は、低めの評価する生徒も多いと思う。相互評価をする機会を設け、周囲の評価もふまえて自己評価できるとよい。(村上委員)
- ・ 自分に厳しい生徒も多く、評価の結果と実態は違うこともあるので、結果の数値はあくまでも参考資料として考えるのがよい。(内藤委員)
- ・ 学校に安心できる場所があるという項目の評価が高いことが素晴らしい。安心できる場所であることは学校に一番求めることである。また、資源回収では中学生はとても協力的だった。多くの生徒が参加してくれるようになり、学校職員も来てくれている。地域の方々もそれを感じていて、学校に好感をもっている。(大塚委員)
- ・ 学校が地域の行事について生徒に発信してくれているので、多くの生徒が参加してくれるようになった。(内藤委員)
- ・ 資源物回収はやらない地区が増えているが、入野地区は続けていきたいので、中学校にも継続して協力してほしい。(御室委員)
- ・ 全体的には大変良い評価である。生徒と保護者が違うのは悪いことではなく、保護者が本当の姿を知らないこともある。その中で、生徒に関心がない保護者に、学校がどう伝えていけるかは課題である。また、肯定的な評価の割合が高いからこそ、そこに入っていない生徒にどういう手立てをしていくかが大事である。(田澤委員)

- ・ ブログで生徒目線の内容を載せられないか。自分の思いを言葉で発信することが苦手な生徒は、文章で伝えるなどの別のアウトプットの方法ができるとよい。(村上委員)
- ・ 生徒と保護者の評価が違うのは当たり前であり、数値はあくまでも目安である。よい評価をしていない生徒や保護者に対して何ができるかが大切である。安心できる場所になっているのはとてもよいことで、それは生徒の相談に対して学校が親身に対応してくれているからだと思う。あとは自分から相談できない生徒に対して、どうしていくかが課題になる。(幅委員)
- ・ 生徒の学習の項目で「そう思わない」の数値が0.2%であることはすごいと思う。自分の子供やその周囲にいる生徒が、笑顔で学校の話をしていることから、中学校が良い雰囲気なのだと感じる。(石川委員)
- ・ この規模の学校としてははじめの件数は少ないと思うし、起こったことに対しては解決に向けてしっかり動いてくれている。(内藤委員)
- ・ 学校の空気感、職員室の空気感から、学校が良い状態であることがわかる。日頃から、雰囲気が暗い、元気がないといった生徒の様子を察知して、先生方が声をかけてくれる環境ができているから、安心できる学校になっているのだと思う。学校運営委員会からも気になったら声をかけられるとよい。(大塚委員)
- ・ せっかく個別のアンケートをしているので、全体の評価のみではなく、個々に注目していきたい。ごくわずかな低い評価の生徒に対して個別にどう対応できるか考えていかななくてはならない。(田澤委員)
- ・ いじめアンケートでは個々に対応してくれていると思うので、学校評価での全体の傾向といじめアンケートでの個々の状況を合わせて対応していけるとよい。(大塚委員)
- ・ いじめとはどういう内容か、防止に向けてどんな取り組みをしているか。(村上委員)
  - 気になることや嫌なことを言われた、SNSで悪口を言われた、などが多い。
  - 入野中の生徒は優しい子が多く、暴力や、ひどく相手を貶めてやろうといったことはない。日頃からあいさつや声かけをこまめにし、先生方は味方であるという姿勢を示している。(高橋教頭)
- ・ 自己肯定感の項目はとても重要で、これがいろいろな方面に影響してくる。ほめるということが大事である。(松下議員)
  - 職員は生徒を認めるということを意識して指導している。ほめる機会を増やして自己肯定感を養うとともに、うまくいかない面(ダメな自分)もふくめて自分を好きになれるよう、自尊感情を高めていきたい。(大庭主幹)
- ・ 入野地区は、地域の活動が活発でとても元気な地域である。そのような地域の雰囲気の中で、子供たちも良い方向に育っていると思う。(御室委員)

## (2) 次年度学校運営の基本方針について

議長の指示により、令和8年度学校運営の基本方針について池田校長から説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ グランドデザインにある、学校運営協議会としての役割について、委員にはぜひ協力してほしい。学校からの具体的な要望はどんなものか。(大塚委員)
  - いりの教室の生徒と関わるボランティアや、学習が苦手な生徒への個別指導のボランティアなどに来てもらえるとありがたい。(池田校長)
  - 各自治会に詳細を伝えて、協力してもらおうのがよいと思う。(大塚委員)
- ・ ラーケーションについては、浜松でも7割の生徒保護者が利用したいというアンケート結果を受けて、令和8年度から導入を考えている。(松下議員)
 

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

### (3) 令和7年度学校運営協議会の自己評価について

会長、副会長の評価をもとに、今年度の委員会の活動を振り返り、次年度の目標について確認した。この結果をもとに、会長が学校運営委員会自己評価表にまとめることとし、全員意義なくこれを承認した。

#### その他報告事項等

- ・学校運営協議会委員研修会(2/25)について、大庭主幹から連絡があった。
- ・高橋教頭より、夢育やらまいか事業について、報告があった。
- ・次回会議は、令和8年4月28日(火)午前9時30分から大会議室で開催することとなった。